

阿部柔道選手の絵馬と色紙（記事・平成二十九年一月）



発行所
 三石神社社務所
 神戸市兵庫区
 和田宮通3丁目2-51
 TEL (078)671-2531
 FAX (078)671-7667
 E-mail info@mitsuishi.or.jp
 URL http://mitsuishi.or.jp

○ ご家庭・会社事務所に神棚を祀りましょう。
 ○ お伊勢さんのお神札（神宮大麻）と三石さんのお神札を合せ奉斎しましょう。
 ○ お神札は、毎年末もしくは新年に新しく改めてお祀りしましょう。

風土記と摂津国風土記逸文に見る神功皇后

三石神社 宮司 小林 友博

師走の候、氏子崇敬者の皆様におかれましては、ご健勝にてご活躍のことと同慶に存じます。又、年頭の正月より一年間各種神事行事に対しましてご崇敬ご奉献を賜り厚く御礼申し上げます。

さて、当社のご祭神・神功皇后の事績伝承初見は官撰史書（国史）である『古事記』（和銅五（七二二）年成立）に続き『日本書紀』（養老四（七二〇）年成立）であるが、風土記（含、逸文）にも散見される。そこで、風土記（特に摂津国風土記逸文）に見える神功皇后伝承を述べたい。

先ず、風土記とは和銅六（七二三）年に中央官命（『続日本紀』同年五月の条に、(1)郡郷の名を漢字二字の好字とせよ (2)郡内の産物品目 (3)土地の肥沃状態 (4)山川原野の名称の由来 (5)古老の相伝する伝承等を報告せよ、と見える）に基づいて、地方各国庁で筆録編述した報告公文書をいい、常陸国風土記に「常陸国司解（解とは、地方より中央官庁への報告公文書の様式をいう）と題していることでも明らかである。よって風土記とは地方のことを書き記した書物であって、大化の改新（大化元（六四五）年）以降の政治体制を地方政治にも確立させる意図があったのであろう。また後の国史『日本書紀』撰進の資料収集のためであったとする説もある。ところで「風土記」という書名は、平安朝の三善清行が延喜十四（九一四）年に執筆した「意見封事」の文中に備中国風土記とあるのが初見で、延長三（九二五）年の太政官符には、再び風土記を提出せよと、風土記が明記されている。よって奈良朝では風土記という書名を確認できない。

風土記の中で現在古風土記と称されるのは、和銅六（七二三）年に編纂された風土記をいい、後世の風土記（一般に風土記逸文という）と区別するという語で、出雲国風土記（天平五（七三三）年成立）の全部と常陸国（養老五（七二二）年成立か）・播磨国（靈龜二（七二六）年以前成立か）・豊後国（天平十二（七四〇）年以前成立か）・肥前国（天平十二（七四〇）年以前成立か）の各風土記の一部をいう。風土記逸文は二十数カ国にわたってお

り、それぞれの国から中央に上申された風土記であることは明らかである。古風土記記載事項以外での、風土記逸文のあらわれは、平安時代後期から鎌倉時代にかけての諸文献（仙覚律師の『万葉集註釈』（文永六（二二六九）年成立、卜部兼方の『釈日本紀』（文永・弘安頃（二二六四）―二二八七）年頃成立か）等々に引用されて伝えられたものをいう。また江戸時代に入り、先行書に引用されていない風土記記事を引用する典籍（林羅山の『諸国風土記抜萃』（寛永（一六二四）―四四）年間に成立、今井似閑の『万葉緯』（享保二（一七一七）年成立か）、伴信友の『古本風土記逸文』（天保七（一八三六）年成立か）等々）が多く急増した。明治以降は武田祐吉博士の『風土記』（昭和十二（一九三七）年成立）が多くの逸文を収採し、逸文のみの研究では栗田寛博士がいるが、現在採採されている逸文で疑わしいもの、認めがたいものは存疑、参考と区別されている。

私たちの神戸市兵庫区が属する摂津の国の風土記は、逸文として残されている。撰津国風土記逸文における神功皇后の記事は三話（うち参考一話）あるが、すべて今井似閑採採のものである。その一つ「住吉」の記事は、住吉大社の鎮座次第に関する伝承で、神功皇后の時代に住吉大神が現れ、神として住むべきよき処（鎮座する地）を探していた。そのときに、沼名棕の長岡の前（大阪市住吉区・住吉大社の地）に来た時に、こは住むのによい国だ。「真住み吉し（住むによい）、住吉の国」と神社を定めた。後、真住み吉しが略されスミノエになったという。その二つ「美奴売松原」の記事は、美奴売は敏馬とも書かれ、神戸市灘区岩屋中町に鎮座の敏馬神社があるので、その先の海岸地での伝承である。ミヌメは能勢郡の美奴売山（大阪府豊能郡能勢町の三草山）にいた神の名とする。神功皇后が筑紫に行幸の時、神々を川辺郡神前の松原（尼崎市の神崎川河口）に集め、幸福（戦勝）を求め祈りをおこなったときに、この神もやって来て「じぶんも助けよう」と、美奴売山に生えている杉の木を伐採して船をつくり、その船で自分と皇后とが乗っていけば、幸福が得られると神託した。そこで皇后は教えのとおり船を造り、その神船に乗って新羅を討った後、還って来て、ミヌメの神をこの浦に祭り、

神船もその神に献上した。その地を美奴売といったという。

参考とされる一つに「御前浜・武庫」の伝承がある。仲哀天皇は三韓を攻めんと筑紫に至ったとき崩御した。いま氣比大明神（福井県敦賀市曙町鎮座の氣比神宮）の祭神として祀られている。開化天皇の五世の孫の息長宿禰の娘である神功皇后が三韓を仲哀天皇に代わって討とうとされたが、産み月であつたので石を腰裳に挿しはさんで産をのぼし、三韓を従えた後、筑紫にて誉田天皇（応神天皇）を産んだ。そののち皇后が撰津国の廣田の郷にいたり廣田明神（西宮市大社町鎮座の広田神社）として祀られた。それで広田の先の海岸を御前の浜といい、また御前の澳という。その時の兵器を埋めたところを武庫といい、今は兵庫という。誉田天皇は八幡大神であるというと記されている。

この「御前浜・武庫」伝承記事文中の、神功皇后が産み月に石を腰裳に挿しはさんだ後、無事皇子を出産したという伝承が、神功皇后と三石神社の石とが結び付き、当社の安産信仰の一つになったものであるが、文中に当社の名が表れていないのが残念である。

風土記のなかの神功皇后伝承は、古風土記では常陸国に二話、播磨国に九話、肥前国に四話、逸文では前記の撰津国に三話をはじめ、播磨国に一話、備前国に一話、伊予国に二話、土佐国に一話、筑前国に八話、豊前国に一話、日向国に一話の伝承を見ることが出来る。

戦後、神功皇后は神話上の人物とみられてきたが、近年は実在説を提唱する専門家も出ている（後藤幸彦著『神功皇后は実在した―その根拠と証明―』明窓出版、河村哲夫著『神功皇后の謎を解く《伝承地探訪録》』原書房など）。それは九州北部に残されている社伝、地域伝承（貝原益軒編纂『筑前国統風土記』（元禄十六（一七〇三）年成立、他に『筑前国統風土記附録』・『筑前国統風土記拾遺』など）、また地名など、多くの神功皇后伝承が主張の根拠となっている。常陸国風土記の「常陸国司解」とあることから、偽証の古老伝承等を地方官が中央に報告したとは考えられない。神功皇后は実在したと考えられる。

平成二十八年十一月

七五三詣祈禱齋行

十一月中、七五三詣祈禱を齋行した。近年子供さんの貸衣装予約の関係か、早々と十月に参拝されるご家族もある。

当社では七五三に当たる子供さんの玉串奉奠や、拝殿内での記念写真撮影も行い、千歳飴やおモチャ・風船・おみやげセット等の他にキャラクターバック等の記念品もお渡しして大変喜ばれました。

期間中の土・日・祝日には会館二階に特設写真スタジオを設け、記念写真を撮っていただけるよう設備しています。



特設スタジオでの記念写真

また、お宮参りにもご連絡頂ければスタジオを設備いたしております。

平成二十八年十二月

新拝殿幕が奉納される



新奉納された拝殿幕



正月事始めに入った十四日、新拝殿幕が奉納された。

従前の拝殿幕は、平成五(一九九三)年六月の皇太子殿下ご成婚記念に奉祝新調したものであるが、正月・例大祭・夏越祭(夏祭)

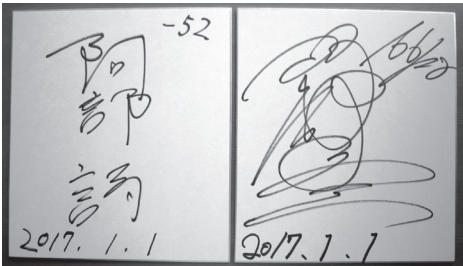
等々の祭礼期間中に用いており、既に二十五年の歳月が過ぎ、生地の変え等により破れ箇所も数カ所できたため、この度新調奉納したものである。

尚、奉納者は、三石神社総代会・同氏子会・同猿田彦会より拠出していただいた。奉納年月は平成二十九年一月吉日と記し、平成二十九年の正月より用いて、氏子崇敬者にお披露目された。

平成二十九年一月

柔道選手・阿部(一二三・詩)兄妹 必勝祈願参拝

初詣で賑わう一日、氏子地区の笠松通五丁目生まれで二〇二〇年開催の東京オリンピック星として注目される阿部一二三



阿部兄妹のサイン(色紙)と一二三選手の柔道世界選手権優勝新聞記事

(二十歳・日本体育大学)と妹の詩(十七歳・夙川学院高校)兄妹柔道選手が当社に必勝祈願参拝した。年末に東京の日本テレビ関係者から、柔道選手の阿部兄妹が氏神である当社を参拝するので、その模様をテレビ取材したい旨の連絡を受けた。阿部兄妹揃って参拝した後、色紙にサイン奉納した後、みくじを引いた一二三選手は「大吉」に大変喜び、更に祈願絵馬に「今年一年負けなし」と書き、ご守護を願って絵馬掛けに吊るした。

当社ご祭神・神功皇后の勝運神徳のご守護もあり、八月に開催された柔道の世界選手権では初出場にも拘



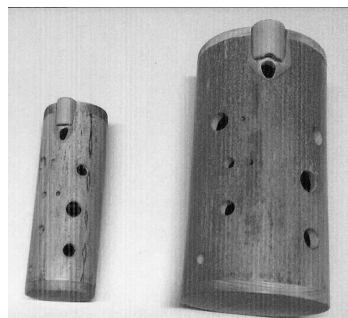
ご神前でのオカリナ演奏奉納

正月三日、「氏子崇敬者繁栄祈願祭」が総代・氏子崇敬者三十六名の参列のもと厳かに斎行され、今年一年の参列者各位はもとより、氏子崇

年頭氏子崇敬者繁栄祈願祭斎行

わらず期待にたがわぬ柔道で優勝(66キ級)、金メダルを手にした。妹の詩選手も全国高校柔道選手権で個人(52キ級)・団体優勝し、インターハイでも優勝を成し遂げた。今後も日本柔道界を背負う兄妹選手と期待してやまない。尚、テレビ放送は関東方面のみ、四月三日に放映されたのが残念であった。

敬者更に各事業所の安寧と繁栄を祈願した。本年の神前奉納は、オカリナとタケリーナの献奏である。オカリナは十九世紀後半にイタリアで考案された容器型フルート(吹奏気鳴楽器)で、オカはガチヨウ、オカリナは小さいガチヨウを意味する。陶製・粘土製など様々な材質で作られ、内部は空洞で、形は長円形、卵型、日本の郷土玩具の鳩笛状など様々あり、中央突出部が吹き口で数個の指孔があり音色はこもったやわらかい音でオルガンの閉管に似ている。タケリーナは、鹿児島県の工房でのみ作られている珍しい竹の笛である。素朴ながら美しい響きにこだわりぬいて作られている為、広く宣伝もされず、あまり普及していない貴重



珍しいタケリーナ楽器

重なる楽器である。この度の演者は、昨年の氏子崇敬者繁栄祈願祭にもご参列いただいた当社の崇敬者で、姫路市在住のオカリナ演奏家(演奏歴約十年)である北川朋子先生により、正月に相応しい「富士山」と、タケリーナによる「里の秋」を献奏していただいた。北川先生のオカリナ演奏、特に参拝者も初めて聴くタケリーナによる哀愁をただよわせた稀有な音色演奏に参列者も盛大な拍手を送った。式典後、参列者一同破魔矢を持ち、鳥居前にて記念写真を撮り直会に入った。



鳥居前での記念写真

年頭より当社ご神前にて氏子崇敬者を始め、商店・事業所・会社等の家内安全・商売繁盛・会社事業所安全繁栄祈願祈禱を奉仕すると共に、出張祭典として各会社奉斎の神棚前での新年守護神祭等を奉仕した。五日、NTT関係電気通信の工事等を業務とする朝長通信(株)が例年通り年頭安全繁栄祈願に参拝した。参拝者十四名を代表して朝長社長が玉串奉奠して、会社・現場事務所の繁栄と高所・地下作業等の現場作業の安全無病息災を祈願した。尚、当社では会社等団体参拝は、特別祈禱として、その代表者に「特別参拝芳名帳」に署名をいただいで



玉串拝礼する朝長社長

年頭より当社ご神前にて氏子崇敬者を始め、商店・事業所・会社等の家内安全・商売繁盛・会社事業所安全繁栄祈願祈禱を奉仕すると共に、出張祭典として各会社奉斎の神棚前での新年守護神祭等を奉仕した。五日、NTT関係電気通信の工事等を業務とする朝長通信(株)が例年通り年頭安全繁栄祈願に参拝した。参拝者十四名を代表して朝長社長が玉串奉奠して、会社・現場事務所の繁栄と高所・地下作業等の現場作業の安全無病息災を祈願した。尚、当社では会社等団体参拝は、特別祈禱として、その代表者に「特別参拝芳名帳」に署名をいただいで

いる。この芳名帳は更にご守護あるよう一年間に亘り毎月一日の月次祭のご神前に奉奠すると共に、神社参拝記録として永久保存文書にしている。

平成二十九年三月

造船所内、新事務所棟（Eビル）竣工修祓式齋行

十六日、三菱重工工業(株)神戸造船所構内で五十四名参列のもと、新事務所棟たるEビルの竣工修祓式が齋行された。

Eビルは神戸造船所地区の新事務所棟として鉄骨造七階建延床面積約



竣工修祓式祭場神事



新築されたEビル

一二、三三四㎡の建屋を新築したもので、平成二十八年三月十四日に起工（地鎮）安全祈願祭を齋行し、長期の工事も事故無く順調に運び竣工修祓式を迎えた。

当日は祭主（建築主）の三菱重工工業(株)機械・設備システムドメインの長谷川執行役員・副ドメイン長以下同社ご来賓、入居会社となる三菱重工工業(株)総合研究所、三菱重工サーマルシステムズ(株)、三菱重工メカトロシステムズ(株)、設計会社の菱重ファシリティー&プロパティーズ(株)、施工会社である(株)大林組の参列を得て、前記各会社代表者が玉串奉奠して、長期に亘った工事の無事故・無災害を感謝すると共に、Eビル入居会社

の今後の安全と事業の繁栄を祈願した。

マンション起工地鎮祭齋行

三十日、兵庫区吉田町三丁目で二十二名参列のもと、共同建替事業の「エクセル御崎公園レガロ」の起工地鎮祭が齋行された。

建物は、全室から海が望める鉄筋コンクリート造六階建て、二十五世帯入居するファミリータイプ共同住宅である。

当日は設計・監理の大土呂巧建築設計事務所の大土呂代表が蒞始の儀、事業主である(株)岡三地所の岡社長が穿初の儀、施工者の岡・今津特別共



起工地鎮祭前の会場



マンション完成予想図

同企業体の岡・今津両社長が鍬入れの儀を執り行った後、前記関係会社を始め神戸市住宅都市局市街地整備部・コンサルタント会社・浜山地区まちづくり協議会・金平地区運営協議会・浜山婦人会等々の各代表が玉串拝礼して、平成三十年三月末迄の長期工事中の無事故・無災害と早期の完売を併せ祈願した。

平成二十九年四月

絵画二点奉納される

二十五日、井上桂子先生より額縁店を通じ二点の絵画が奉納配達された。作品は公募展に出品された日本画

である。

の「牡丹」と水墨画の「桜」で、共に五〇号の大作である。

奉納作者である井上先生は、神戸市北区に在住で、学生時代から水墨南画、日本画の両先生に師事し、日本画柏樹会に所属して雅号も柏華をいただいている。先生の画歴は、全国規模の公募展を始め、兵庫県展、こうべ市民美術展等々に入賞、入選すると共に個展（四回）も開催し、現在は芦屋市民センターで「はがき絵」教室での指導をするなど精力的



水墨画「桜」



日本画「牡丹」

に活動をおこなっている。

宮司と井上先生との出会いは、神戸市中学校のPTA役員会であった。そこで、井上先生の実家が神道であると知らされ、その後、実父様の神葬祭をご奉仕するというご縁に始まり、更に実母様の葬儀をもご奉仕し、また各年慰霊祭も務めさせて頂いている。このようなお付き合いの中、先生の絵画活動を知り、作品の奉納の話をしたところ、快くこの度の奉納となったものである。

尚、両作品共に、当神社会館に掲示している。

平成二十九年五月

例大祭と神幸式齋行

大祭前の四月二十七日の神戸新聞朝刊の「神戸の春祭り・五月のスケジュール」兵庫区欄に当社の祭礼記事が掲載された。

大祭日の二十六日金曜日、午後六時からの例祭には、区内神職のご助勤奉仕により、総代始め氏子崇敬者二十四名の参列のもと、例年通り巫女による神前神楽も奉納し厳肅に斎行した。後、会館二階にて三菱重工



スタジアム前での記念写真

神戸造船所の青野総務グループ長の来賓挨拶を賜り、乾杯、直会に入った。二十七日土曜日午前八時より、各地区お旅所の入魂修祓式を齋行し、午後一時半より、地区総代・氏子役員・自治会関係者の指導により、子供みこし四基が神輿唄を声高らかに唄いながら氏子町内を巡幸し、午後四時半を以て無事終了した。尚、例年通り事故の無きよう各子供みこしには自社雇のガードマン五名や、兵庫警察署派遣の八名の警察官らが警備と交通整理にあたった。

二十八日の日曜日、五月晴れに恵まれ、例大祭最大の神事である神幸式が賑々しく齋行された。午後二時前より明石市大久保町わかばの夙龍之介君（十七歳）扮する猿田彦の勇壮な踊りに続き、直垂装束姿の総代や、和田岬小学生達の直垂装束の神宝持役十四名、吉田中学校生男女六十名（男子三十名、女子三十名）による本神輿昇上げ役、化粧をした宮司太刀持役である兵庫区笠松通五丁目の渡辺昇正君（和田岬小五年）、そして各地区子供みこし四基、総勢約二〇〇人の神幸式大行列が発発し、約二時間半かけて氏子内を巡幸した。沿道見学の氏子の人達も、黄色い声を張り上げる女子中学生の参加し



猿田彦の踊り



た本神輿行列に元氣と希望をもらつたと感謝していた。
午後六時から、会館二階にて神幸式奉仕の総代始め氏子三地区の人達

又猿田彦会員達約四〇名の出席による合同直会が開催され、無事神幸式が斎行できた喜びで盛り上がりつつあった。

平成二十九年六月

岐阜県海津市へ氏子崇敬者親睦旅行



お千保稲荷神社本殿前

本年の氏子崇敬者親睦旅行は、岐阜県海津市方面への日帰りバス旅行を実施した。

十一日、宮司・禰宜を含め総代・氏子崇敬者二十四名（北部氏子会五名・南部氏子会八名・東部氏子会五名・猿田彦会一名・崇敬者三名）の

参加のもと、先ず海津市平田町に鎮座し「おちよぼさん」の愛称で親しまれている千代保稲荷神社を参拝した。境内は狭いがお稲荷さんを祀っているので商売繁盛・家内安全のご利益があり、参道には川魚料理・漬物・串カツ・草餅などの店が約一二〇軒も並び、毎日が縁日のような賑わいで年間二〇〇万人以上の参拝があるという。鳥居をくぐって直ぐに細繩に取り付けた油揚げと口ウソク売場がある。参拝者はそれを求めて本殿前の賽銭箱上にお供えして祈願するとご利益を授かるという。但し、お供えされる油揚げの数も多いため、関係者が直ぐ撤去し、元の売場に戻すのを見た旅行参加者は感心なのか、あきれたのか「さすがお稲荷さんや、ええ商売しとる」とも

らしていた。参道の串カツ店などを食べ歩く参加者もいるなど、結構参拝を楽しんでようである。

その参道の端にある川魚料理店「やまと新館」で、ナマズ料理を昼食とした。黒焦げのナマズに箸を付けれぬか心配したが、御婦人方も楽しみつつ旺盛に食していた。

昼食後は海津市歴史民俗資料館を



海津市歴史民俗資料館での記念写真

訪れ、集合記念写真を撮って入館した。館内では特に、木曾川・長良川・揖斐川の河川に囲まれ、水位より低い高須輪中の人々の水害・塩害との戦い、土地改良などによる低湿地農業に必死に取り組み、水害から暮らしを守った人々の歴史を学んだ。

次に全国に鎮座する津島神社の総本宮で、建速須佐之男命を主祭神とする津島神社を自由参拝した。その神社の末社・菅原社境内に、当社と同じく「三ツ石」がある。それは船の形をした三つの石で、神の降臨するところ、御座所とする磐座ではないかとされている。旅行参加者も当社と同様の三ツ石があることを知り、

神功皇后が三ツ石を磐座とした当社の正しき由緒を再認識しようである。

帰路に御在所サービスエリアで買物などをし、遠路であったが無事に帰神した。

三菱電機守護神社の本殿遷座祭齋行



絹垣にて本殿遷御を奉仕する総務部社員

二十七日、三菱電機(株)神戸製作所守護神と鎮座する天照皇大神社の本殿遷座祭が斎行された。

神戸製作所では平成十七年三月、新社殿に更新建立した際にも本殿遷座祭を斎行したが、この度は既存覆屋根を撤去及び新設、木製玉垣から石製玉垣への更新、参道敷石の補修

等の改修工事に併せ、社の基礎補修と台座補修を執り行うこととなり、三石神社を仮殿と定め、既に本年三月に工事安全祈願祭併せ仮殿遷座祭を斎行したが、無事に各工事も竣工し本日の本殿遷座祭齋行となった。

まず午後二時半、供奉員となる総務部社員参加のもと、本番に用いる行障・絹垣を手に「おー」と警蹕をかけたがらの遷御の習礼(練習)を行った。

薄暗くなった午後七時、齋服の宮司を始め祭員(禰宜)、神戸製作所代表者、供奉員奉仕社員等が所定の座に着き、雅楽の音と共に消灯した中、祭員の祓いを先頭に、「御」(ご神体)を奉持した宮司を囲むように



遷座後の本殿前神事

行障・絹垣が静々と厳かに本殿に進行し、参列者一同は低頭して迎えた。入御後境内は点灯され、神前に神饌を供え、宮司祝詞奏上、更に中西総務部長が祭詞奏上の後、玉串奉奠を行い、神饌の撤去、お社の閉扉をし、一同お社に一礼した後、神酒拝戴で本殿遷座祭神事を終了した。

平成二十九年七月

夏越祭(夏祭り) 齋行



神戸新聞の茅の輪

十七・十八日の両日、相殿に祀る素盞鳴大神の夏越祭を斎行した。

十七日午後六時からの殿内祭典には、海の日の祝日とあつて会社関係の不参もあつたが、総代・氏子崇敬者十九名の参列のもと、例年通り上

野順子琉球舞踊研究所神戸支部員による琉球舞踊二曲(かじゃでい風、加那ヨ)が神前奉納された。

「かじゃでい風」は、祝宴の祝儀(祝福)舞踊で、国の安泰を願うと共に長寿を寿ぎ子孫繁栄を喜び、扇を用いて大らかに舞う古典舞踊の一つで、二曲目の「加那ヨ」は、男女の愛情を大らかに謳いあげる筋の、明治期に創作された賑やかでコミカルな動きが人気の雑舞踊の一つである。この琉球舞踊神前奉納の後、参列者代表各位が玉串奉奠した。

更に、境内に設けた「大茅の輪ぐり」神事では、宮司・禰宜に続き参列者一同が「蘇民将来 蘇民将来」と唱えつつ左・右・左と三度ぐり夏は無病息災を祈願した後、会館二階にて参列議員の挨拶・乾杯発声で直会を執り行い、和やかな雰囲気の中、参列者は神職手作り無病息災のご利益ある「蘇民将来茅の輪守」を授与されお開きとした。

当日は神戸新聞社の記者が夏越祭取材に来社。二十三日(日曜日)の神戸新聞朝刊の「新五国風土記ひょうご彩祭」の欄に、夏越祭の記事と高田総代を先頭に境内大茅の輪をく

ぐる写真が掲載された。



神前奉納の琉球舞踊



権禰宜の個展開催

平成二十九年八月

一日より六日の間、神戸市中央区



個展案内状

北野坂のダイヤモンドギャラリーで、当社権禰宜小林晴美（雅号・美鳳）の第三回目（平成十四年・三石神社会館二階にて開催、平成二十三年・篠山市ギャラリー恵山にて開催）となる個展が開催された。

一回目は水墨画を含め書作品を中心に展示、二回目は墨彩画を含め日本画を中心に展示、今回は七年程前より、書は前衛書、日本画は抽象画を画くようになり、それらの作品を合わせ二十六点が展示された。

美鳳の前記以外の画歴は、書部門では兵庫県展（二回）、こうべ市民美術展（二回）、兵庫県書道展（十一回）の入選を始め、宇野雪村賞全国書道展では入選（二回）、佳作受賞

（二回）し、日本画部門（含水墨画）では、兵庫県日本画家連盟公募展（七回）、こうべ市民美術展（八回）、篠山市展（十回）の入選を始め百花創作展では兵庫県いけばな協会賞を受賞している。また美鳳作品は三石神社は勿論のこと、佐賀県伊万里市の松浦一酒造（株）、京都府京都市の松尾大社、石川県加賀市の宗寿寺、愛知県名古屋市の熱田神宮、島根県松江市の松江護国神社などにも奉納されている。

期間中は遠方の姫路市・篠山市などからの来場も含め約一五〇名の方々が鑑賞した。その中でも一人の女子高校生が各作品の制作方法など



個展会場風景

を細かく質問し、二時間ほど鑑賞してくれ、美鳳の作品に強い関心を持ってくれたことも嬉しかったと喜んでた。
尚、産経新聞、毎日新聞にはこの個展開催の記事が掲載された。

平成二十九年九月

大型油脂類貯蔵タンク
更新・増設工事竣工式斎行



構内仮設テント内での神事

二十九日、東灘区魚崎西町のニッケル・エンド・ライオンズ（株）住吉営業所構内に於いて大型油脂類貯蔵タンク更新増設工事竣工安全祈願祭が斎行された。



竣工した新タンク群

港湾運送・油脂化成品類取扱・輸出入事業等々を営むニッケル・エント・ライオンズ(株)は、住吉営業所で油脂化成品類の取扱いを行っており、昭和四十一年に設けた六基の貯蔵タンクを此度撤去更新し、新たに三基を増設した。更新増設された新九基のタンクは、時世の大型化と利用顧客ニーズに合せ、加温用設備等も設け、動植物性油脂を共に取り扱うことが出来る。タンク下部はステンレス製、その他はスチール製で、総貯蔵容量三、五九一klとなる。

平成二十八年三月に起工地鎮祭を斎行し、既設タンクの撤去、又新タ

ンクの新設等の併用工事で、二期と分けた工事も事故無く進み、竣工を迎えた。

当日は構内に祭場を設け、施主のニッケル・エンド・ライオンズ(株)江口社長を始め、同社の親会社、油脂メーカー、商社等のご来賓二十名と設計・施工会社を含め計三十四名参列のもと、新タンクの清め祓いも厳粛に執り行われ、各代表が玉串奉奠して今後の安全と事業の隆昌を祈念した。

尚、竣工式に先立つ八月十一日、住吉営業所大型油脂類保管タンク九基更新・新設工事竣工奉告並びに稼働安全祈願のため、江口社長ほか五名が当社を参拝した。

平成二十九年十月

全国戦没学徒追悼祭に参列

二十一日、台風二十一号の影響による雨天の中、欄宜が南あわじ市阿万塩屋町の大見山にある若人の広場公園で開催された第二十三回全国戦没学徒追悼祭に、兵庫県神道青年会役員として参列し、太平洋戦争で学び半ばで動員され犠牲となった



昨年の慰霊塔を望む追悼祭

二十万人余の学徒達の御霊を慰霊して冥福を祈り、平和への誓いを新たにしました。

この追悼祭は、「全国戦没学徒を追悼する会」の主催で、昭和十八(一九四三)年十月二十一日に学徒出陣壮行会が東京・明治神宮外苑競技場で行われたのちにちなみ、二十一日を追悼祭日と定め、終戦五十年の平成七(一九九五)年より開催されている。

当日の追悼祭は、兵庫県知事(代理)を始め約一五〇名の参列のもと、神道青年近畿地区連絡協議会が中心となって、近畿圏内の青年神職達が神式にて斎行されるが、宗派の枠を超えて戦没学徒の方々に慰霊をする

ため、斎主の祭詞、主催幹事長等の追悼文奏上後、海上自衛隊のラッパ隊が慰霊記念塔に向って「国の鎮め」等三曲のラッパ吹奏があり、続いて巫女が「みたま慰めの二人舞」(「やすらかに ねむれとぞおもふ 君のため いのちさゝげし ますらをのとも」この御歌は、香淳皇后が昭和十二年、国のために命を捧げられた多くの護国の英霊・戦没者の上をお慰びになられてお詠みになられたものです)を奉奏し、更に僧侶による般若心経読経、キリストの幕屋による讚美歌奉唱などがあり、祭主・参列者代表による玉串拝礼、献花の儀などが行なわれ、還魂の儀を以って神事を終了する。

尚、若人の広場公園の慰霊塔・永遠のともしびには、「この広場は、太平洋戦争(昭和十六年―二十年)で戦没した学徒ら若人を記念して、昭和四十二年に建設された。当時の学徒は、国と民族の危急にのぞんでさまざまな軍需工場での生産や、あるいは武器を取って戦場に向かった。その数は四〇〇万人におよんだ。それは十四才から二十二才の男女学徒である。彼らは各々の持ち場で、生



丹下健三氏設計の慰霊塔

命が果てるまでひたむきであった。それは、肉身や民族を思うひたぶるな情熱と意思にさゝえられていた彼らは、人間として真実であることを懸命に欲していた。戦いが終って、二〇万人の学徒は死に、再び学舎にはもどらなかつた。この永遠の灯は、若くして死せるその生命をいたむために、またその生命が願ったものをも道標として次の若い世代に伝えるためにこの広場で、永遠に燃えつづける。若人よ不純の劫火を消せ 若人よ不屈の理念を燃やせ 若人はここに巨歩を發するのだ」と説明板が設置されている。公園内施設は昭和四十二（一九六七）年に世界的著名な丹下健三氏の設計により建築され、慰霊塔は学徒の象徴としてペン先を模した高さ二十五mの塔で、併設の展示資料館は塹壕をモチーフに建設され、戦没学徒の遺品など様々な物

品が展示されている。

社殿屋根葺き替え事業・銅板

御寄進者ご芳名

(含) 申込・分納・追加、

平成二十八年十一月から

平成二十九年十月末日まで)

順不同・敬称略



境内の奉賛芳名揭示板



銅板寄進案内板

趣意とお願い

現社殿は昭和三十八年に竣工して、五十五年となります。

銅板の寿命は約五、六十年といわれています。そこで将来銅板屋根の葺き替えを行なわなければなりません。

そのような事情により、皆々様に銅板寄進（一枚二千円）をお願いいたしております。

社殿銅板屋根にあなた様のお名前を残し、更なる三石大神のご加護により、貴社・貴家の益々の弥栄をご祈念申し上げます。ご案内申し上げます。

既にご奉納いただきました方には重ねてのご案内となりました。ことをご了承下さい。

新生児命名

平成二十八年十二月から

平成二十九年十月まで

シリーズ

社務所・境内紹介

下の写真は、兵庫の「語りつごう戦争」展の会（代表・妙法華院住職新聞智照）が二〇〇五（平成十七）年十月に発刊した写真集『神戸空襲の傷痕―樹と石と大地に刻まれた―』に、「三石神社の石灯笼」として掲載されたものである。

同書の写真説明文（文責・神田敏正）には、一三月十七日 本朝一時 警報発令 B29ノ編隊少数機先神戸上空ニ侵入各種焼夷弾爆弾ヲ混用無差別爆撃ヲ行ヒ 旧兵庫地区ノ殆んど全地域灰燼ニ皈シ 当社社モ亦稲荷社ヲ除ク本殿拝殿社務所ハ烏有二皈ス（『石路の迹―社務日誌が語る和田岬の終戦前後―』小林友博編）。

石灯笼の傘（笠）に焼夷弾が直撃掘れたところをモルタルで補修したあとが残っている。―と記されている（筆者一部訂正加筆、以下同）。

この石灯笼は、鳥居をくぐった直ぐにある。正面に「印徳」（神様のご神徳を仰ぐの意）と標され、裏面には「明治十三（一八八〇）年庚辰三月、発起人（神田甚兵衛ほか二十

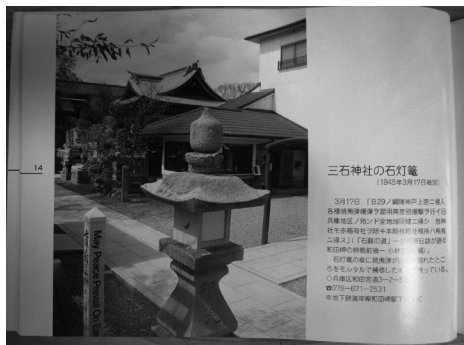
名)の名が刻まれ一対物として建立されたものである。

焼夷弾直撃の石灯笼は、鳥居(正面左側の柱の下部が変色しているのは、これも神戸空襲による戦火の跡である)をくぐった左側の石灯笼である。今も笠に黒く変色したモルタル部分を見ることが出来る。

尚、本年九月二十五日、神戸大空襲戦跡を後世に周知させるべく説明高札も立てた。

更に、『石路の迹―社務日誌が語る和田岬の終戦前後―』には、「空襲ノ終り頃ヨリ造船所付近ニ敵機侵入 最初社務所大玄関ニエレクトロ五・六発落下シ 防空壕ヨリ出テ空地ニ避難セントセシ杉村社司母堂 肩先ニ一弾命中 人事不省トナラレ杉村社司ハ 発火中ノエレクトロニ焼夷弾ヲ手ヅカミニテ外ニ投出サレシタメ両腕 顔面等ニ火焼シツツ 小林社掌ト共ニ 消火シ事ナキヲ得タルヲ以テ 母堂ノ手当ヲナシタルモ 間モナク飯幽サル 然ルニ又焼夷弾 玄関並大広間等ニ落下シ 敢闘モ終ニ効ナク炎上セシヲ以テ御神體ノ御遷座ニ着手 杉村社司抱キマツリ 小林社掌警護ノ上一旦笠松

通六丁目焼跡ニ御動座 折カラノツムジ風並ニ降ル火ノ粉ノ中ニアツテ御神體ノ御安全ヲ守護シ 午前五時 過吉田国民学校校長室ニ御避難



写真集「神戸空襲の傷痕」と焼夷弾直撃の当社石灯笼

恙ナク御安置申上ラグ 職員避難前迄ハ 本殿並ニ拜殿ニハ焼夷弾等ノ敵弾ノ落下ヲ認メズ 社域ニ各種焼夷弾小型爆弾等数十発ノ落下シタルヲ認ム 今回ノ空襲ニヨリ 当社氏子地全滅ス」と、焼夷弾が雨あられのように降り注ぐ様子や、親族の焼夷弾直撃による帰幽の中にも拘わらず、神職として奉仕使命感を持つて御神體を守護する行動などが簡潔に記され、当時の惨状を知ることが出来る。

終戦記念日(八月十五日)に近い日、母子連れが訪れ、「戦争の遺跡は何処にありますか」と尋ねられた。終戦後七十二年も過ぎ、戦争遺跡を訪ねる人が少なくなつたが、戦争の残酷さ、いまわしさの跡を後世に残し、再び戦争を起こさない、また起こさせないを肝に銘じ、永久平和を希求したい。

シリーズ

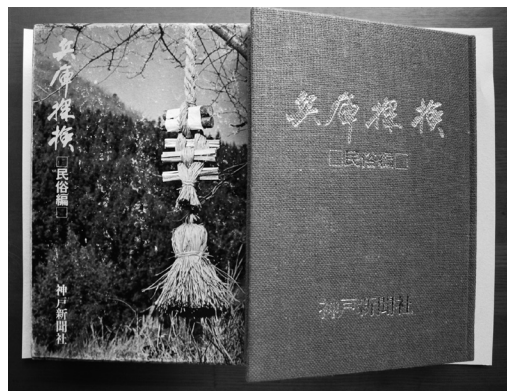
書籍に見る三石さん

『兵庫探検・民俗編』

本書は神戸新聞社から四十五年前の昭和四十六年十一月に発刊されて

いる。著者は神戸新聞社芸芸部兵庫探検民俗編取材班である。

本書の「まとめ」に、「民俗行事というものは、その社会、その地域で偶然だれかの発明で起こったり、突然発生したりするものでないことは、言うまでもない。」と伝承の歴史を述べ、また「あとがき」で、『兵庫探検』は「文字として残されない古くからの伝承や習俗が急速に消失の必要に迫られていた、更に「昭和四十年代の民俗記録として価値があるのではないかと自負している。」とあるように、貴重な兵庫県民俗誌



である。

さて本書「茅の輪くぐり」の項の資料編・神戸市の条に、「三石神社 七月一七日が夏越し祭り。チガヤを巻きつけた直径二尺ほどの輪をつくり、神官がおはらいをしたのち「みなづきの、なごしのはらえする人は千歳の命のぶというなり」と、夏越しの歌」を口ずさみながら、その輪を三回くぐり抜ける。参拝者はその輪からチガヤを抜いて小さな輪を作り、お宮からいただいた蘇民将来子孫と書いたお札をくくりつけ、持ち帰って軒にさすと、病よけのまじないになるといふ。このほかひと形に名前と年齢を書いて納める。」と、当社の「夏越祭」記事が見られ、同書「ひょうご民俗暦」の項の七月十七日に「茅の輪―兵庫区・三石神社」と記されている。

また「誕生儀礼」の項の資料編・神戸市の条に、「三石神社は、神功皇后が臨月で三韓征伐に出かけられたとき、三個の小石を腰にはさんで安産を祈ったといい、神功皇后が祭神。安産の祈祷にお参りし、三つの石をいただいて帰る。お産が始まると家族が神社に来て手水ばちの水を

手ですくい、全部新しい水に取り替えると安産するという。」と記され、三つの石の入った安産お守りは今も授与しているが、手水ばちのことは早く廃れ現在は行われていない。更に「三石神社の祈石」お守りの写真も掲載され、「神功皇后の故事から、これを身につけると安産の守りになるという。」との説明も記されている。

平成三十年の神社神事・行事予定

- 一月 一日 歳旦祭（初詣）
- 一月 三日 氏子崇敬者繁栄祈願祭
琴演奏奉納
浜田静代・近藤真佐子両先生
- 五月二十五日 例大祭
- 二十六日 地区子供みこし巡幸
- 二十七日 神幸式（おわたり）
- 六月 十日 氏子崇敬者親睦旅行
- 七月 十七日 夏越祭
（琉球舞踊奉納・茅の輪くぐり）
- 十八日 （茅の輪くぐり）
- 九月二十三日 西宮神社産宮参り
- 十月 十四日 秋祭（天照皇大神祭）
- 各月 一日 月次祭
- 十一月中 七五三詣

三石神社諸祈祷ご案内

【殿内個人祈祷】

（殿内における各種祈祷）
家内安全、病氣平癒、安産、初宮詣、七五三詣、学業成就、厄除、交通安全、その他

【会社・事業所安全繁栄祈祷】

（会社・事業所団体祈祷は事前ご予約願います）

【出張祭典】

（諸準備の為、事前ご予約願います）
起工・地鎮祭、上棟式、竣工式、入居清祓式、神棚祭、各種安全祈願祭、その他（含 神葬祭）

印刷所

(有)前川企画印刷

神戸市兵庫区永沢町三丁目三十一番
TEL (078) 577-2488
FAX (078) 577-7320